

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立北川副小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
  - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

##### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

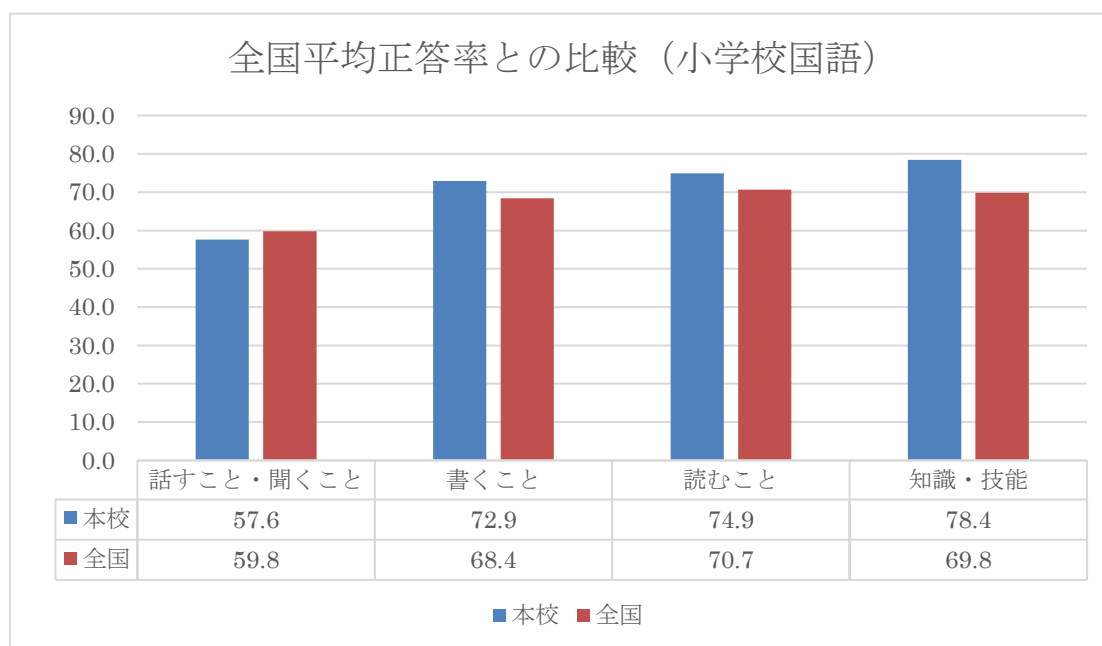
| 児童(生徒)に対する調査                                                                       | 学校に対する調査                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査<br>(例) 学習に対する興味・関心, 授業内容の理解度, 基本的な生活習慣, 家庭学習の状況 など | 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査<br>(例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況 など |

#### ■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国 語



#### (1) 結 果

「書くこと」、「読むこと」、「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っています。また、問題形式別の平均正答率も、「選択式」、「短答式」、「記述式」のすべてにおいて、全国平均よりも高くなっています。無解答率については、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

#### (2) 成果と課題

今回の調査結果を問題形式別にみると、「選択式」、「短答式」、「記述式」の問題の正答率が、全国平均を上回るという成果が見られました。また、無解答率がほぼすべての問題で全国平均より低くなっていることから、どのような形式の問題にも抵抗なく取り組んでいることも成果と考えられます。領域別にみると、「話すこと・聞くこと」が全国平均を下回りました。よって、すべての領域において平均正答率を上げることが課題です。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題にも取り組める力をさらに伸ばしていくことが重要であると捉えています。

#### (3) 学力向上のための取り組み

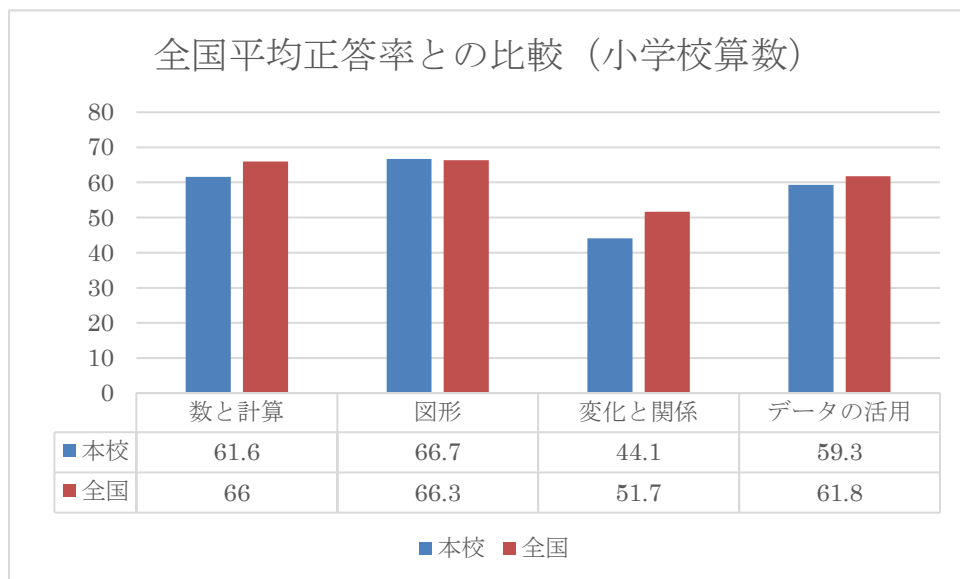
##### 【学校では】

- ・条件（段落の数、字数など）やキーワードを基に、自分の考えを書いたり、まとめたりする活動を取り入れます。
- ・インタビュー、紹介や発表などの学習では、ゲストを招くなどして、相手意識をもって話す場面を設定します。
- ・「読書デー」などを通して読書に親しみ、新しい文章や言葉に触れる機会を増やします。

##### 【ご家庭では】

- ・「読書デー」をはじめ、日頃から読書する時間を大切にしましょう。語彙力を高め、知識の幅を広げるためにも読書は効果的です。図書館に行く、読書について話題にするなど、読書環境を整えていただければと思います。
- ・お子さんが書いた作文などを見てください。書かれた内容について詳しくたずねたり、感想を伝えたりして、楽しく会話するきっかけの一つにしていきたいです。

## 2 算数(数学)



### (1) 結果

「図形」以外のすべての領域において全国平均正答率を下回っています。また、問題形式別の平均正答率も、「選択式」、「短答式」、「記述式」のすべてにおいて、全国平均よりも低くなっています。無解答率については、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

### (2) 成果と課題

今回の調査では、「数と計算」領域の  $350 \div 7 = 50$  を基に  $350 \div 0.7$  の商の大きさについて考える問題で正答率が全国平均を 10% 以上下回っていました。また、「変化と関係」領域の家から図書館までの自転車の速さが分速何 m かを求める問題も全国平均を大きく下回っていました。よって、除数と商の大きさの関係や速さの意味などについても考えられるようにすることが課題です。さらに、計算問題を解くだけでなく、求め方や答えを式や言葉を用いて記述する問題にも取り組める力を付けていくことも重要であると捉えています。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 問題文に線を引かせたり、1 単位あたりを意識させたりして、問題で求められていることを明確にしてから立式できるようにします。
- 体験的な活動を取り入れたり、生活場面と結び付けて考えさせたりして、量感を養えるようにします。
- ノートチェック、プリント、ドリル、宿題、日々の指導の中で個々のつまづきを見つけて補充指導をしたり、復習を取り入れたりします。

#### 【ご家庭では】

- 算数科の学習では、「学習したことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。「家から〇〇までが約 1 km」や「mL」や「L」を身の回りの飲み物などで体感させるなど、生活場面において学習したことを触れさせてください。
- 宿題の計算の間違いは、その場で訂正させることが一番効果的です。確認をして、訂正させていただけるとありがたいです。

### 3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

#### (1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

| 調査項目                          | 本校 %  | 全国平均 % |
|-------------------------------|-------|--------|
| 朝食を毎日食べていますか。                 | 89.0% | 83.4%  |
| 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。            | 42.4% | 39.7%  |
| 毎日同じくらいの時刻に起きていますか。           | 63.6% | 56.1%  |
| 自分にはよいところがあると思いますか。           | 43.0% | 43.4%  |
| 将来の夢や目標を持っていますか。              | 70.0% | 60.6%  |
| 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。          | 89.0% | 71.1%  |
| いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。 | 96.0% | 79.5%  |

朝食・起床・就寝については全国平均を上回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを整えることは、生活や学習にもよい影響を与えます。今後も引き続き、家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

《家庭学習の様子》

| 調査の項目                                                | 本校%   | 全国平均 % |
|------------------------------------------------------|-------|--------|
| 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「3時間以上」 | 8.0%  | 11.0%  |
| 「2時間以上、3時間より少ない」                                     | 15.0% | 12.5%  |
| 「1時間以上、2時間より少ない」                                     | 22.0% | 31.1%  |
| 「30分以上、1時間より少ない」                                     | 43.0% | 27.0%  |
| 「30分より少ない」                                           | 23.0% | 13.0%  |
| 「全くしない」                                              | 7.0%  | 5.3%   |

家庭学習については全国平均を下回っています。勉強とは、教科内容だけでなく、自分の興味のあることを追究していくことも含まれます。お子さんが「やってみたい。」と思うことを明確にすることが大切です。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

- ・生活習慣に関しては、家庭科や保健の学習、学級活動の時間において引き続き指導を継続していきます。
- ・「ぽかぽかカード」の活用や人権・同和教育の取組を通して、自己肯定感や規範意識を高めていきます。
- ・学校からは、学年が上がるにつれて、自分で内容を決めて取り組む学習（自主学習）を勧めています。自主学習については、どのようなことをどのようにすればよいか、モデルを示したり、紹介したりしていきます。
- ・どのような学習活動においても、結果だけではなく、そこに至るまでの過程についても認めたり、励ましたりしていきます。

##### 【ご家庭では】

- ・生活習慣や家庭学習については、「豊夢ワーク週間」でも取り上げている項目です。規則正しい生活と家庭学習が定着することは、期間中だけでなく、日々の生活が大きく関わります。今後も、ご家庭においてお子さんへの声かけや励ましをお願いいたします。